

踏まね踏まれても生き返る

NO.29 2025.6.3

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

編集：発行 木村松夫
090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com
com-matchan@hotmail.co.jp

メール発信のみの情報紙です。ご希望の方はメールでお申込みください。無料です。

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録
地域自主活動グループのWEBページでも閲覧できます。ほかのグループのレポートも見てください

2025年春道端の植物相の変化 気になったこと

正確な記録を取っているわけではなく、あくまで「印象」なのですが、毎年今の時期に問題になってきたナガミヒナゲシは今年は大繁殖していません。ほかにも、道端の植物にはこれまでにない変化がいろいろありました。その時々の記事でお伝えしていない植物をレポートします。

その① 冬の間からホトケノザとナズナが開花



写真は昨年12/11撮影のもの。本格的に開花する時期の春4月になると、ホトケノザはもう勢いが衰えていました。ナズナは大群落を形成。

その② ヒメヒオウギがやたらにあちこちで咲いている



園芸開発されたものが野生化したと思われます



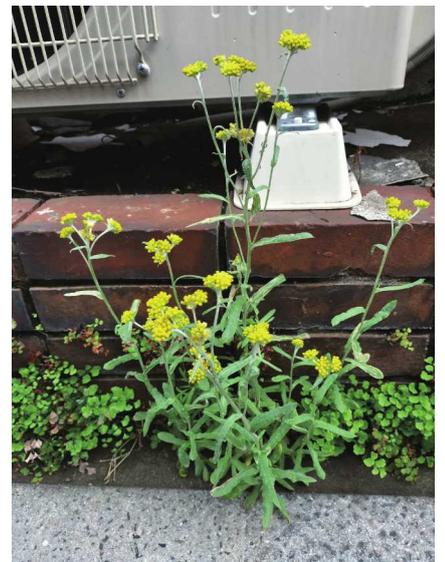
が、これまでは開花しても翌年は消えていて定着性が悪い植物でした。今年はあちこちで咲いています。来年はどうか？

その③ 道端のハハコグサの黄色が鮮やか→ その④ ↓イモカタバミの大群落がきれい



まちなかのハハコグサは色褪せて美しくないのが多いのですが、今年は本当に母のイメージを思い起こさせてくれる爽やかな黄色でした。

濃い紫のイモカタバミは小さなかたまりでは背景に沈んでしまうのですが、今年は直径1mぐらいの大群落が多く、遠目でも美しく見えました。



その⑤ 石神井川緑道以外でキンポウゲ（ウマノアシガタ）を観察

葉の形はニリンソウに似ています。それもそのはず、ニリンソウはキンポウゲ科の植物です。この花は「キンポウゲ科のキンポウゲ」という種名なのだから、紛らわしく、これまでは別名のウマノアシガタと呼んでいました。石神井川緑道でしか観察できていませんでしたが、北区のとある場所で見つけました。

調べ直したら、「ウマノアシガタ」でも「キンポウゲ」でも、どちらでも通用しているようです。

さて、石神井川緑道ではもとの生育場所だった崖の擁壁が隣接する福祉施設による丸裸

の草刈りで全滅。現在は緑道脇の露地で、ここだけ残された選択的草刈りで生き残っています。

民間人だろうがお役所の仕事だろうが、露地がむき出しになる草刈りは行うべきでないというのがわたしの持論ですが、最近、インターネットのニュース欄に以下のような記事が出ていました。DIYの普及記事なのですが、「あえて草丈を残す」発想が現れてきたのは注目すべきことです。保護活動の視点からの提言ではないので違和感もありますが、原文のまま全文をご紹介します。



あえて草丈を残す「高刈り」 プロにメリット・デメリットについて聞いてみた

2025/5/29 YAHOOホームページ掲載 発信：DIY-FUFUDIYクリエイター

■ 草は短く刈るほどいいと思ってた。でも…
草刈りって、「できるだけ地面スレスレまで刈る」のが正解だと思いませんか？

実はそれ、次の草を“呼んでしまう”やり方かもしれません。最近、じわじわ広がっている草刈り手法が「高刈り（たがり）」。名前のお通り、あえて草を“高めに残す”というものです。見た目はちょっとラフ。でも実際やってみると、意外なメリットがたくさんあるそう。

今回はプロに聞いた「高刈りの本当の効果」をまとめてみました。短く刈る方が絶対にいいのだと思込んでた

■ プロが語る「高刈り」のメリットとは？

お話を聞いたのは、草刈り歴30年以上の近所の農家さんたち。（田舎に住んでいるので周りはベテラン農家さんばかり）最近では、草刈りをする場所にもよるらしいのですが、あえて「高刈り」をされることもあるそう。

「全部短く刈ると、太陽が地面まで届いて土が乾くし、雑草の種が一気に芽を出して、かえって早く伸びることもあるんです」

◆ 高刈りの主なメリット

・草の再生スピードを遅らせる → 次の草刈りまでの間隔が長くなる

・地面が乾きにくい → 土壤保水力を保ちやすい

■ でも、デメリットもある？

「もちろん、草が高いままだと“きれいに見えない”という声もありますね。

それに、草の種類によっては“刈り残し”が種をばらまくこともあるので、そこは注意です。」

◆ 高刈りのデメリット

・見た目が少しラフになる（整然とは見えない）

・種で増える雑草は取りこぼすと逆効果

・ヘビや小動物の棲家になってしまうことも

■ DIYでもできる「高刈り」の工夫

高刈りは、プロの技術じゃないと難しい…というわけではありません。

あくまで草丈を10～15cm残す草刈りなので、素人でも試しにやってみることは可能です。

① 刃の高さを意識して「手加減」する

・地面から10～15cm程度を目安に、少し腰を落として刈る

・「根元を攻めすぎない」という意識だけでOK

② 手作りガイドをつけるのもアリ

・刈払機の先にタイラップ+木片で“高さストッパー”をつけることで、一定高さに揃えやすくなる

・完全なDIYだけど、意外と効果大（自作ホイールを付ける人も）

③ 高刈り後の“ならし作業”もDIYの一環

・刈った草をそのまま“草マルチ”として利用すれば、土壤の保湿や雑草防止にもなる

・クマデや竹ぼうきでざっくり均すだけで十分

■ まとめ | がんばらない草刈りも、立派なDIY

高刈りは「整えて残す」草刈り。

完璧に“丸坊主”にするよりも、ちょっとだけ残すほうがラクで、エコで、結果的に手間も少ない。そんな“脱・がんばりすぎ”の考え方が、今見直されてきています。

もし今まで、「草刈りは根元まで」と思込んでいたなら、今年を実験的に“高刈り”を試されても面白いかもしれません。

もし経験談等がありましたらコメントで教えていただけると嬉しいです。